



しめい すなお

<高本 紫暎(順)> 1738~1813

高本順は、肥後藩学「時習館」の教授で漢詩人として有名です。「萬松廬」は高本順が居住した庵の跡です。若い時に父を失い心に期することがあって熊本城下から阿蘇に来て、7年間阿蘇に在住しました。その間、阿蘇家に所蔵の国学、和歌の本を読破し、勉学の傍ら阿蘇家塾の師として萬松廬で国学、和歌の道を研究し合いました。とくに当時の阿蘇の文化や風物などを書いた「阿蘇布理」は大変貴重な文献となっており、このほか、和歌や漢詩でも阿蘇を題材とした作品を数多く残しています。



古松萬餘樹 結宇在其間
黛色無時變 …以下省略
* 弘化2年(1845年) 建立
この碑は、高本順が、宝曆(一七五〇~一七六四)の数年間、学問に打ち込み、阿蘇家塾の師として過ごした萬松廬跡に建てられています。碑にはなっていないかもしれませんが次のような歌も残しています。
萬松廬の旧居を思い
月の宮猶すみぬらむ昔我が
庵むすびし山の井の水
人の世は変わり行けども山里の
我まつ風は今も吹くらし

古神の森(宮地)

阿蘇家の大宮司惟善以後の墓がある所です。慶長6年(1601) 加藤清正は、徳川氏の許しを得て惟善を大宮司として矢部から宮地に帰しました。宮地の屋敷(現在地)に居を定め、古神の森から、矢部の惟豊、惟種、惟将の神霊を遷すために、石の小祠を建て古神社としました。この社が古神の地名の由来です。

歌碑 高本 紫暎(本名 順)
歌碑所在地 国造神社(手野)

「玉くしけ二重の山をこえゆかは
手野の神杉見えすかもならむ」

* 熊本県知事 細川護 書
* 平成5年建立
元国指定天然記念物「手野の大杉」を詠んだものです。



歌碑 高本 紫暎
歌碑所在地 吉松神社(赤水)

「おく山の檜の本末うちきりて
神の御伽ぎと祝ひぞ奉る」

* 阿蘇神社宮司 阿蘇惟之書
* 平成12年阿蘇郷土の会建立
阿蘇に滞在中、田植まつりや火焚き神事などを詠んだ「阿蘇布理」の中の一節の歌が刻まれています。



詩碑所在地 古神の森(宮地)

漢詩 萬松廬 八首

